

# 令和6年度 学校経営計画・学校評価

□4月4日提出

□10月3日提出

☑3月14日提出

学校番号

38

大方

高等学校

課程

定

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備
	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針)		【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)
スクール・ポリシー	・将来の目標や夢に向かってチャレンジする生徒。 ・自分の個性や能力、自らの進路を切り開く力を伸ばそうとする生徒。 ・高校での学びに意欲と熱意をもつ生徒。 ・働きながら学びたい、また、学び直しをしたい生徒。	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力)	・普通教科を中心としたカリキュラムを編成し、基礎・基本を重視したユニバーサルデザインの授業を行います。 ・一人一人の力に応じた学習指導を行い、基礎学力を定着させます。 ・通信制との併修、学校外での学修(高等学校卒業程度認定試験、資格取得、就業実務代替、ボランティア活動等)の単位認定等、多様なニーズに対応します。 ・入学後に3年間または4年間で卒業するコースが選択できます。 ・学校行事や部活動を通して友情や他者を思いやり尊重・共感する心を育てます。 ・外部団体と連携し、キャリア教育や多様な生徒に合わせた居場所づくり・仲間づくりを行います。 ・地域とともに学び、ともに歩み、貢献できる力を育成する活動を行います。
	・社会で自立して生きるために必要な基礎学力を育成します。 ・他者を思いやり尊重する心や共感する心を育成します。 ・協力し合いながら人間関係を築いていこうとする態度やコミュニケーション力を育成します。 ・地域とともに学び、ともに歩み、貢献できる力を育成します。		

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 A 】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来を見通した学びから確かな学力につなぐ取組がされている。引き続きの取組としてください。</li> <li>・年度当初から変化なく安定した状況であり、成績優秀者も半数ということで評価に値する。</li> <li>・目標を達成できている。</li> </ul>	
【社会性の育成】	評価 【 A 】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組は展開されたが、結果は十分ではなかった。</li> <li>・数字が下がっている部分もあるが、全体的には評価は良いと思う。コミュニケーション力も育てていくことへの取組が良いと思う。</li> <li>・否定的な生徒もいるが概ね目標を達成できている。</li> </ul>	
【チーム学校】	評価 【 A 】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の魅力化の取組に不十分さは見られるものの、不祥事防止、長時間勤務の解消の取組はなされている。</li> <li>・ストレスのない職場環境がつけられているということで高評価です。</li> <li>・昨年度以上の成果も見られ目標を達成できている。</li> </ul>	

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】		
重点項目	学力的向上	<b>★確かな学力</b> ・基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ・思考力、判断力、表現力等 ・学びに向かう力、人間性等 <b>★将来を見通した学び</b> ・将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	ホーム主任が、生徒の出欠及び体調等について毎日報告する。(職員室ホワイトボードに記入) ○基礎的・基本的な知識及び技能 ・授業での生徒の様子や小テスト等の情報を共有し、定期テスト等で一般常識問題が解けるようにする。 ○思考力、判断力、表現力等 ・授業等で、言語で自分を表現する場面を設定する。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・進路に応じた各種検定取得に取り組ませる。 ・ICT機器を活用し、能動的な学習の場面を設定する。	A	・成績不振者数【9月】1人(前期期末) 家庭状況悪化による不登校での出席時数不足。 ・アンケート(肯定的回答)【問14】85%(6月) ・成績優秀者数【9月】6人(前期期末)	・成績不振の原因は、不登校による出席時数不足であるので、三者面談で保護者等への協力を依頼する。 ・生徒が進路目標や自己実現目標を考える場を様々な教育活動内に設定する。 ・全校生徒の46%が成績優秀者であるので、後期もこの状況を維持またはさらに向上させるため、日々の授業を大切にしている指導を行っていく。	A	・成績不振者の割合【12月】1人(後期中間)→【2月】0人 ・アンケート(肯定的回答)【問14】85%(11月) ・成績優秀者【12月】6人(後期中間)	・成績不振者は2月時点で時数不足が解消され、目標を達成する見込みである。 ・成績優秀者は昨年度よりも倍増の6人となったが、進路目標未定の者が多く、目標に向けての努力ができていない。基礎学力の定着とともに、進路意識を高める指導を行っていく。
	社会性の育成	<b>★豊かな心</b> ・自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 <b>★多様性・包摂性</b> ・キャリアデザイン力(やりぬく力) ・他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	不登校経験がある生徒も、高等学校ではホーム内や学年を越えた人間関係においてもコミュニケーションがとれる。 ○コミュニケーション力 ・【問25】立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている。(高知県オリジナルアンケートの活用)肯定的な回答80%以上 ○キャリアデザイン力 ・【問30】将来の夢や目標をもっている。(高知県オリジナルアンケートの活用)肯定的な回答70%以上	○コミュニケーション力 ・学校行事への出席率向上(80%以上)を目指す。生徒の希望や意見を取り入れた企画や立案を行う。 ・ボランティア等に積極的に参加するよう促す。 ○キャリアデザイン力 ・はた若者サポートステーションと連携し、やりぬく力やスキル習得のための活動等の充実を図る。(年4回) ・面談等でアルバイトと学業との両立ができていくか確認し、就労体験を勧め、進路意識の向上を図る。	B	・アンケート(肯定的回答)【問25】100%(6月) ・【問30】69%(6月) 進路決定が目前となった高学年がより現実的に進路先を考え始めたため、高年次生ほど肯定的な回答が低割合。	・学校行事には全生徒が参加できているため、今後も継続していく。 ・はた若者サポートステーションと連携し、自己理解及び職業理解等に関するセミナーを11月以降2回実施する予定である。 ・個人面談等で進路意識の向上を図り、進路先を早期決定させていく。	B	・アンケート(肯定的回答)【問25】100%(11月) ・【問30】62%(11月) 3年生が1人肯定的な回答に変化した。1、2年生が1人ずつ否定的な回答に変化したため7ポイント減となった。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ・生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ・地域・関係機関との連携	総合的な探究の時間の取組「ファームプロジェクト」でNPO法人に寄贈する綿花を育て、生命の尊さ等も学んでいる。 ○社会参画能力の育成 ・【問19】地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。(高知県オリジナルアンケートの活用)肯定的な回答60%以上 ○地域との連携 ・NPO法人砂浜美術館との連携事業(年4回)	B	・アンケート(肯定的回答)【問19】77%(6月) ・NPO法人砂浜美術館との連携事業を2回実施。同法人に寄贈する綿花を全学年で育てている。	・各学校行事において、社会参画能力の育成をねらいとした活動を企画し、個性に応じた指導を充実させる。 ・はた若者サポートステーションとの連携授業のほか、要支援の生徒については個別指導・助言を実施していく。	A	・アンケート(肯定的回答)【問19】85%(11月) ・NPO法人砂浜美術館との連携事業を3回実施。同法人に昨年度の倍以上の綿花を寄贈した。	・寄贈する綿花の収穫量が昨年度よりも倍増し、生徒の地域貢献心が高まった。NPO法人やサポステ等外部機関との連携をさらに強め、生徒の社会的自立や社会参画に繋げていく。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ・学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ・各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	多様な特性をもつ生徒に対応した授業を行っている。 ・【問9】学校の授業では、学習のねらい(めあてや目標)が示されている。(高知県オリジナルアンケートの活用)肯定的な回答80%以上 ・【問29】物事が計画通りに進まないとき、どうすればよいかを考え、乗り越えようとしている。(高知県オリジナルアンケートの活用)肯定的な回答80%以上 ・校内研修(公開授業等)への教員参加率100%の維持。	○言語能力の育成 ・授業評価アンケート(年3回)を行い、教員の指導力向上を図るとともに、座学の全教科授業において「めあて」「本時の流れ」「まとめ」を黒板に掲示する。 ・授業内で情報活用能力を育成する場面(年4回)を設定する。 ○課題解決力の育成 ・生徒による学校行事の企画運営及び振り返りを行う。	A	・アンケート(肯定的回答)【問9】100%(6月) ・アンケート(肯定的回答)【問29】92%(6月) ・校内研修教員参加率100%	・生徒への授業アンケートを実施し、結果分析のうえ指導力向上を図る。 ・11月の公開授業週間において教員相互の参観授業を行い、授業改善について話し合いを行う。 ・授業内での情報活用能力を育成する場面の設定を引き続き行う。	A	・アンケート(肯定的回答)【問9】100%(11月) ・アンケート(肯定的回答)【問29】100%(11月) ・校内研修教員参加率100%

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】			
チーム学校	学校の振興	<b>★学校の魅力化</b> ・働きながら学ぶことや学び直し等、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒の個に応じた支援 ・外部機関や地域の方々との連携した行事による社会性の育成及びキャリア教育の推進。	・はた若者サポートステーションやハローワークとの連携授業を計5回以上実施し、個別面談等において1年次から進路意識の高揚に努める。 ・近隣の市や町のイベントやボランティア活動への参加を促し、社会性や郷土を愛する心の育成に努める。	B	・はた若者サポートステーションとの連携授業を9月までに2回実施した。 ・NPO法人に寄贈する綿花を全学年で育てている。また、同法人から講師を招き、綿花栽培の取組意義や利用方法等についての講演を行った。	・はた若者サポートステーションとの連携授業のほか、支援が必要な生徒に対しては個別指導の充実やSC・SSWの相談体制を充実させることで対応していく。 ・ハローワーク講話を実施し、自己理解と職業理解を推進していく。	B	・はた若者サポートステーションとの連携授業を合計5回実施し、生徒自身の自己理解や社会性の育成を行った。 ・NPO法人に、昨年度の倍以上の綿花を寄贈した。	・サポステ等の外部機関との連携により様々な職種や職業を知る機会を得て、進路実現100%に繋がった。1年次から進路意識を高揚させ、NPO法人との連携等で生徒の地域貢献意識や郷土愛を育成していく。	
	不祥事防止	<b>★教職員の倫理観の堅持</b> ・不祥事防止対策の徹底 ・より良い職場風土づくり ・教職員のメンタルヘルス ・不祥事発生時の適切な対応	これまで不祥事に該当する事案は発生していないが、孤立した教職員が発生しないよう風通しの良い職場づくりに努める。 ・校内研修の実施回数(年2回) ・不祥事防止委員会の実施回数(年12回)	・個人情報漏洩等に繋がらないよう机の周りの整理整頓に努める。 ・配付文書の封入や送付については複数の教職員で確認する。 ・不祥事防止に関する自己研鑽に努める。	A	・全教職員が不祥事防止動画を閲覧し、校長講話による校内研修を行った。 ・不祥事防止委員会を月1回実施している。	・不祥事防止に関する研修を年度末までに最低あと2回実施する。 ・密付封筒の導入等、不祥事事案が発生しない工夫を進める。	A	・全課程全教職員による不祥事防止校内研修を3回実施した。 ・不祥事防止委員会を11回実施している。	・不祥事防止に向け、「自分事」として捉え考察する校内研修や、より良い職場環境・人間関係づくりを全教職員でさらに構築していく。
	働き方改革	<b>★長時間勤務の解消</b> ・国が定める労働時間の厳守 ・教職員のライフワークバランスの調整 ・職務の質の向上と健康の増進 ・会議資料のペーパーレス化	分掌業務等について、誰もが対応できるよう横と縦の連携を強化し、良好な人間関係が構築された職場づくりを推進する。 ・年次有給休暇の取得(年10日以上) ・時間外勤務の減少(20時間以内/月)	・年休届、教職員業務記録簿の管理や点検をしっかりと行う。 ・休暇等を計画的に取得できるよう、全教職員が行事予定等の把握に努める。 ・月1回の定例職員会を開催し、業務等の早めの企画・立案と情報共有を図る。	A	・特別休暇や年休の取得については計画通りできている。 ・長時間勤務者は年度当初から9月まで0人であり、目標通り達成できている。	・行事等の案を早めに提案し、分掌を越えた業務の平滑化を進める。 ・年休等が取りにくい状況にならないよう、分掌等の業務を日頃から複数で対応できるようにしておく。	A	・特別休暇・年休の取得については計画どおりに実施できている。ストレスのない良好な職場づくりにつながっている。 ・すべての月で時間外勤務がなく、当初の目標を達成できている。教職員の健康面も問題はない。	・縦横の連携の取れた職場環境・人間関係が構築されており、ストレスのない勤務や休暇等の取得に繋がっている。今後も適切なコミュニケーションを図りながらより良い環境づくりに努める。